

第11章 社会経済条件詳細調査

第 11 章 社会経済条件詳細調査

11.1 目的

本調査の目的はモデル地区内の詳細な社会経済条件を把握することで、社会構造、土地利用、農業、既存天然資源とその管理、住民組織、ジェンダー、意思決定の過程、住民のニーズなどの項目を含む。調査結果は村落天然資源管理計画案作成に向けての基礎情報となる。

調査は、モデル地区の村落インベントリー調査と 3 村における簡易農村調査（RRA）から成る。村落インベントリー調査はモデル地区全村を対象とし、各村の基礎情報を集め、村落境界線を確認し基本地図上に落としした。インベントリー調査で収集した情報を踏まえ RRA 実施村を選定した。

11.2 インベントリー調査と RRA サンプル村の選定

11.2.1 モデル地区内の村落リストの作成

村落や集合村落の境界線が入った地図がないので、1998 年国勢調査用地図を基にモデル地区暫定村落リストを作成した⁵¹。調査班は TA Kuntaja と TA Kapeni チーフを訪問し、調査の説明を行うと共に、調査への協力を願い出た。両チーフとも調査の実施を快諾し、村落リストの確認・修正に協力し、村長・村民が調査に協力するよう該当村へ使者を送ってくれた⁵²。この時点での村落リストは TA Kuntaja に属する 25 村と TA Kapeni に属する 8 村の合計 33 村であった。（図 11.1 参照）

11.2.2 調査方法と手順

まず、インベントリー調査票（Annex II-G-4）に基づき村落リストにある該当村⁵³の調査を行った。調査はグループインタビュー、トランセクト、実測、住民による地図作成などの手法を用いた。次に、TA Kuntaja と TA Kapeni の村に分け、村長と補佐役を集めてワークショップを開催し、これまでの情報をフィードバックし、補足情報を収集した後、集合村落ごとに村落境界を明らかにした地図を作成してもらった。次に Dmasi にある水産局職員、林業および農業普及員、教師、保健員など関連機関の職員より情報を収集した。ワークショップで作成された地図からモデル地区内の領域がカバーされていないことが明らかになったため、最後に追加調査を行った。

11.2.3 インベントリー調査結果

以下が村落インベントリー調査結果の概要である。ただし、村の一部がモデル地区内に含まれている場合でも村単位の情報を収集したので、結果はモデル地区内に全体または一部が含まれる

⁵¹ 国勢調査用の地図にも村落境界線が入っていないため、ある村がモデル地区内にあるか否かを判別するのが難しい場合もある。そのため、TA のチーフとリストの確認をする必要があった。

⁵² TA Kuntaja のチーフは領域内のインベントリー調査に同行することを決め、調査日程等を記した書状を該当村に配布した。TA Kapeni にある調査村は全て Kumponda 集合村落に属しているため、Kumponda 集合村落長の協力を得た。

⁵³ 調査班を 3 グループに分け（1 グループ最低 2 名の調査員より構成）、通常 1 グループが 1 日 2 村ずつ調査を実施した。村落リスト外であったが、TA Kuntaja チーフの依頼によりチーフの出身村である Kuntaja 村の調査も行った。村民の前でチーフの申し出を断ることは出来ず調査は行ったが、モデル地区外であるため調査結果に含めなかった。

33 村の調査結果である。調査データは ANNEX II-G.4 に添付資料としてまとめた。

(a) 村落数、行政区分、人口、世帯数

モデル地区は 33 村⁵⁴からなり、そのうち 8 村は TA Kapeni に属し、25 村は TA Kuntaja に属す。TA Kapeni にある 8 村は全て Kumponda 集合村落に属すが、TA Kuntaja の 25 村は 4 つの集合村落にまたがっている (表 11.1)。33 村のうち完全にモデル地区内に含まれている村は 19 村で、残りは村の一部のみがモデル地区に含まれる。33 村の人口および世帯数は 21,406 人、4,136 世帯である⁵⁵。世帯の平均構成員数は 5.2 人で、モデル地区の人口密度は 370 人/km² である。

(b) 社会と部族

調査した 33 村は母系社会である。殆どの村には Ngoni、Yao、Lomwe などの異なった部族が共存しているが、Ngoni が多数を占める村が 19、Yao が多数部族の村が 9 と、この 2 部族がもつとも大きい。Lomwe、Mang'anja、Chewa が多数部族を占める村も少数あり、また Sena、Tumbaka、Tonga を少数民族として含む村もあった。モデル地区において部族間の争いは殆ど耳にせず、多部族が同じ村で平和に共存しているようである。

表 11.1 モデル地区の村落リスト

TA	Kuntaja				Kapnei
集合村落	Kuntaja	Mdala	Kam'mata	Lemu	Kumponda
村落	Mang'ani	Mdala	Kam'mata	*Lemu	Kumponda
	Gomonda	Nanjiwa	Kumanda	*Teula	P. Bilila
	Gomezza	*Kaumbata	Tamvekenji	M. Ngondo	*Kamwendo
	*Chakana	*Siyamdima	*D. Mbedza	*Manjelo	*Ndemanje
		*Makonokaya	*Chilangali	*Chikoja	*S. Mponda
		C. Dzimbiri		*Makanani	*Maluwa
		Kantumbiza		*Michongwe	K Chigumula
				*Masangano	*Kateyo
				*Salimu	
村落数	4	7	5	9	8
		TA Kapeni25			TA kuntaja 8
		モデル地区 33			

* 村全体がモデル地区内に含まれる村。

⁵⁴ ワークショップの中で作成された地図から調査した村のうちの 1 村が完全にモデル地区の外にあることが分かり、また現地調査中に存在が明らかになった 1 村が加わり、モデル地区内の村落数は合計 33 村であった。

⁵⁵ 各村の全体面積とモデル地区内に含まれる部分の面積比から計算したモデル地区内の人口と世帯数は 14,349 人と 2,849 世帯である。

表 11.2 モデル地区内の村落の規模

No.	T.A.	村名	村面積		人口 (人)	人口密度 (人/ha)	世帯数 (戸)	家族数 (人)
			全体	モデル地区				
1	Kuntaja	Mang'ani	293	59	476	1.6	95	5.0
2		Gomonda	43	13	300	7.0	52	5.8
3		Gomezza	90	37	326	3.6	79	4.1
4		Chakana	49	49	200	4.1	50	4.0
5		Nanjiwa	234	197	489	2.1	120	4.1
6		Mdala	701	362	1,289	1.6	306	4.2
7		Kaumbata	316	316	714	2.3	112	6.4
8		Siyamdima	119	119	899	7.6	168	5.4
9		Makanokaya	164	164	251	1.5	56	4.5
10		C. Dzimbiri	71	31	370	5.2	50	7.4
11		Kamtumbiza	900	60	2,486	2.8	451	5.5
12		Kam'mata	171	87	1,513	8.8	244	6.2
13		Kumanda	127	102	258	2.0	46	5.6
14		Tamvekenji	36	18	501	13.9	56	8.9
15		Daniel Mbedza	70	70	154	2.2	41	3.8
16		Chilangali	51	51	258	5.1	40	6.5
17		M. Ngondo	107	98	493	4.6	82	6.0
18		Lemu	349	349	2,316	6.6	496	4.7
19		Teula	127	127	493	3.9	142	3.5
20		Manjelo	69	69	408	5.9	67	6.1
21		Chikoja	233	233	748	3.2	169	4.4
22		Makanani	296	296	679	2.1	200	3.4
23		Michongwe	43	43	193	4.1	36	5.4
24		Masangano	66	66	570	7.9	87	6.6
25		Salimu	134	134	838	5.7	148	5.7
26	Kapeni	Peter Bilila	129	45	435	3.4	72	6.0
27		Kamwendo	315	315	353	1.1	59	6.0
28		Ndemanje	144	144	235	1.6	38	6.2
29		Simon Mpombe	54	54	327	6.1	65	5.0
30		Maluwa	45	45	376	8.4	62	6.1
31		K. Chigumula	89	45	782	7.7	160	4.9
32		Kumponda	109	51	1,584	8.3	264	6.0
33		Kateyo	15	15	92	6.1	23	4.0
合計			5,759	3,864	21,406	3.7	4,136	5.2

(c) 自然環境

モデル地区内には Lunzu、Nkokodzi、Ntenjela、Milala、Nasonjo などの恒常河川の他に幾つかの小河川がある。33 村中恒常河川が流れていない村は 6 村のみである。モデル地区には Milala ダムと Ntenjela ダムがあり、両者とも植民地時代に灌漑用に建設されたもので、現在近隣住民により小規模であるが洗濯、内面漁業、野菜栽培（バケツやジョウロ使用）に使用されている。33 村の中で共有林がある村は 8 村で、更に戸別林が散在する村が 7 村あったが、面積的には小さく 1 ha 以下である。また、24 村に墓地があり墓地内は通常在来樹種林となっている。

(d) インフラ

一般に道路や橋の状態は劣悪で、雨期には通過不能となるところが多い。深井戸は全部で 33 本あり、そのうち 7 つは調査時点（2000 年 6 月）で故障しており使用不可能であった。深井戸が 1 つも無い村は 11 村あるが、複数の深井戸がある村も 7 村ある。単純計算によれば 1 本の井戸が 650 人を越える人口を支え、政府が目標とする 250 人に 1 つの深井戸を大きく下回っている。

小学校は7校あるが、そのうち3校はジュニアスクールと称される最終学年8年までの設備を持たない学校である。その他に3年まである中学校（通常中学校は4年制）が1校ある。モデル地区にある4つの診療所⁵⁶は全て母子保健を対象としたもので、月1回開かれる巡回診療所である。診療所の1つは建物を持たず、野外で行う青空診療所である。この地域の主な市場はLunzuで、モデル地区から4~17km離れたところにある。Nanjiwa村にはMombo市場があるがLunzuよりかなり小規模なものである。モデル地区内に製粉所は2箇所しかなく、トウモロコシ製粉のために女性は長距離を歩かなければならない。深井戸、学校、診療所、市場、製粉所の位置を示した図11.2に示す。

(e) 住民組織

2村を除けば各村最低1つの住民組織があり、大半の村には複数の住民組織がある。モデル地区内に既存の住民組織は表11.3にまとめる。また、既存組織の詳細は前章（10.9 既存住民組織）参照のこと。

表 11.3 既存住民組織

組織名	村落数
村落開発委員会 (VDC)	10
井戸管理委員会	21
保健委員会	14
村落天然資源管理委員会 (VNRMC)	8
学校委員会	9
PTA	6
農民組合	9
キリスト教系宗教団体	8
イスラム教系宗教団体	1
ダム管理委員会	3
地域自衛団	1
MAFE 委員会	1
農業開発委員会	1
水委員会 (村に深井戸の設置を目指す)	1

(f) 村落境界線

カスタマリーランドはその地域の伝統的首長である TA チーフの管轄とされ、TA チーフが域内の村長や集合村落長⁵⁷に土地を配分する。しかし、土地の境界を示す地籍台帳は存在しない。

インベントリー調査の一環として村の地図を村民に作成してもらった。各村とも村民の話合い、描き直しの末地図は完成したが、近隣村の地図と比較すると、多くの重複が見られた⁵⁸。近隣に学校、孤児院、橋などの重要な施設がある場合、村人はその施設を自分の村に含める傾向があることが分かった。

ワークショップ中、集合村落ごとに村長とそのアドバイザー補佐員を集め共同で地図を作成して貰った。村の境界線に関し、村長同志激論になった場面もあったが、最終的には各グループご

⁵⁶ Nanjiwa 村で診療所が建設中であり、将来一般診療所として開設される見込みである。

⁵⁷ TA チーフが村長と集合村落長に直接土地を配分し、この点では集合村落長も村長も同等に扱われる。

⁵⁸ 調査の開始前から村落境界線の判明は困難であることが予想され、村落境界線を確認するために村長を集めたワークショップを開催する必要性が話し合われた。

と同意に基づいた地図が完成した。村の境界線の入った地図は図 11.1 に示してあるが、1つの村が他の村を包含していたり、村が飛び地のように離れた土地を有していたりと、村の境界は複雑である。これは村が一人の村長が管理するには大きく成り過ぎ、TA チーフにより 2 つまたは 3 つの村として分けられたような場合がある。村内の特定の氏族が新しい村として独立することもあり、村の境界線は氏族の土地がどのように配分されているかにより決まったという。

11.2.4 RRA 実施村の選定

モデル地区は RRA 調査実施村として調査地域内の村を代表するモデルとなり得る条件を持つ地域であり、そこで荒廃流域の復旧方策が示される必要がある。このことは RRA 調査実施村が自然、社会経済の側面で一般的な通性を具備すべきことを意味する。調査地域内には 339 村があり、196 千人の住民と 46.6 千世帯が約 67 千 ha の土地に生活している。このことから 1 村平均の村落面積は 200 ha、人口は 600 人、世帯数は 135 世帯となる。年降雨量は 650 ~1,050 mm であり、平均 850 mm である。また、土地の平均傾斜度は 3.4%、樹冠被覆率は 2.4% である。これらの立地条件に近い村落として下記の 3 村が選定されたが、その立地条件は下表のとおりである。

表 11.4 RRA 実施村の比較

選定基準としての要因	単位	調査地域平均	Ndemanje 村	Nanjiwa 村	Kaumbata 村
村落平均面積	ha	199	144	197	316
村落人口・世帯数	-	578 / 135	235 / 38	489 / 120	714 / 112
市場への距離	km	0 ~ 17	6	0	13
農家世帯当たり土地面積	ha	0.5	0.8	0.5	1.3
今後開発可能な残存土地面積	ha	7% = 14	5 ~ 10	25 ~ 30	10 ~ 15
推定年間土壌損失量*	t/ha	6 ~ 7	3 ~ 6	4 ~ 7	1 ~ 6
樹冠被覆率/薪材不足率	%	2.4 / 56	2.5 / 61	2.4 / 40	1.9 / 49
地形勾配	%	3.4	2.3	3.8	2.4
年平均雨量	mm	850	870	830	810

注：* 現地観測で実証された SLEMSA 式に基づく、ガリー生成状況を加味した年間土壌流出量

出典：村落インベントリー調査およびその他 1999 年、2000 年度に調査団が実施した調査結果

3 村の選定は 2000 年 6 月半ば時点で利用可能な村落レベルのデータによった。上記の表に示したような、数量化したデータを基に以下の様に RRA 実施村 3 村の選定を行った。地理的にはモデル地区の南東に位置する Ndemanje 村、ほぼ中央に位置する Nanjiwa 村、北部に位置する Kaumbata 村であり、どの村も調査地域の平均的または代表的村落としての特徴を有するという基準を満たしている。また、村長が調査に対し協力的であり、村の開発に意欲的姿勢を示し、NGO や他の援助機関がプロジェクトの実施を行っていないという点も考慮した。以上のような点を考慮し、上記の 3 村を RRA 実施村として選定した。

11.3 RRA

11.3.1 RRA の手順と調査方法

調査は以下の手順に従って行った。

- 調査目的の明確化
- RRA で調査する項目の設定

- 項目ごとの SSI リストの作成
- 調査形態（キーインフォーマントインタビュー、グループ討議、フォーカスグループ討議など）および調査分析技法の設定
- ある程度の時間枠を考慮した、5 日間の RRA 調査日程の作成
- 調査員への RRA 手法の訓練
- 調査プロトコールの確認
- 各村の調査日程と会場の設定
- 調査用具の準備とロジスティクスの手配

11.3.2 RRA 調査結果

次の各項は他の箇所では記載の無い項目に関してまとめたものである。

(a) 村の歴史

異なった起源を持つが（Kaumbata 村は Swaziland に起源を發し、Nanjiwa 村は Chiradzulu 県、Ndemanje 村は Blantyre 県内の Mpemba に始まる）、各村とも口伝によって 20 世紀初頭まで口伝による村の歴史を遡ることができる。肥沃な土地を求めて移動を繰り返した後、現在の位置に居住を定めたのは 1911 年から 1931 年の間である。

定着後の事件の中で、1949 年に起きた飢饉は特筆に値し、3 村において多くの人命を奪ったという。伝染病が大々的に発生した時期を例外とし、3 村とも人口は年々増加している。また、土地が徐々に肥沃さを失い、天然資源が枯渇し、その結果として新天地を求めて離村した人々もいる。1980 年代の度重なるコレラの発生は人々の記憶に新しい。

(b) 母系氏族社会

3 村とも母系氏族社会に基づく類似した社会構造を有している。前章（10.9 既存住民組織）に記したように村は複数の氏族集団により構成されている。各氏族は最年長の氏族長により統率され、氏族領の各家族への分配や氏族内の問題調停などに関しては氏族長が責任を持つ。

母系社会で一般的であるように、婚姻の後男性が妻の出身村に移り住み、子供は母親とその氏族に属すが、夫は妻の氏族の正式な一員とはみなされない。夫は結婚後も母親の氏族に属し、重要な氏族内会議には呼び戻されることもある。妻の死後、夫は妻の村に留まり土地の使用を許されることが多いが、再婚する場合には村を去る必要がある。妻の親族と不仲であった場合などは、妻の死後夫が村から追い出される場合もある。

(c) ジェンダー

男女の役割分担に関して 3 村で類似している点と異なっている点があった。どの村でも料理、水汲み、薪採集、掃除などの家事は女性の仕事と見なされている。Kaumbata 村の場合は男女の役割分担がより伝統的で厳格であり、男性が家事を手伝っているところを見られると他の村人からかわれるというが、Nanjiwa 村と Ndemanje 村ではそのようなことはなく、男性の家事参加

もそれほど珍しい光景ではないという。3村とも日常生活において夫の意志決定権の方が強い⁵⁹。Kaumbata村ではこの傾向がより強く、他の2村では金銭の使用法などは女性もある程度、意志決定に参加している。

この違いは人々が近代的な考えや生活様式に触れる度合いに起因するものと思われる。Kaumbata村はNanjiwa村とNdemnaje村に比べ辺境な地にあり、普及員なども訪れることは稀である。

3村とも共同作業には男女とも参加するが、男性は石運び、レンガ作りなどの体力のいる作業を、女性は水や砂運びといった比較的軽い作業を受け持つ。

(d) 生計

食糧自給できない世帯が大多数ではあるが、経済活動の中心は3村とも農業である。トウモロコシは通常自給用とされているが、Nanjiwa村では現金収入を得るためにトウモロコシを売る場合もある。キマメ、ラッカセイ、カボチャ、バンバラマメ、野菜、果物が多く、の世帯にとって主要な収入源である。鶏やヤギを飼育し、現金が必要になった時に売る場合もある。

表 11.5 RRA 実施村における現金収入源

ランク	Kaumbata 村			Nanjiwa 村			Ndemanje 村		
	項目	応答数 (20)	%	項目	応答数 (17)	%	項目	応答数 (25)	%
1	ハンバラマメ	17	85	マンゴ	17	100	キマメ	25	100
2	ヒヨコマメ	12	60	鶏	14	82	果物	15	60
3	キマメ	11	55	山羊	12	70	Dimba の野菜	14	56
4	薪材	10	50	ビール醸造	11	65	甘藷	13	52
5	Dimba の野菜	10	50	Dimba の野菜	11	65	鶏	13	52
6	日雇い	9	45	トウモロコシ	9	53	山羊	13	52
7	ラッカセイ	7	35	パプリカ	8	47	ラッカセイ	9	36
8	山羊	7	35	ラッカセイ	8	47	草	7	28
9	乾燥野菜	5	25	ハンバラマメ	7	41	日雇い	7	28
10	ソルガム	4	20	甘藷	7	41	土製の壺	6	24

注：応答数の下の数字は前調査個数

3村で人々の現金支出パターンは類似しており、殆どの人々がトウモロコシを含めた食料、農業投入材、衣服、薬品など必需品の購入で現金を使い果たしてしまう。製粉所でトウモロコシを製粉する費用も大きな支出である。下表はRRAで上げられた主な支出項目である。

⁵⁹ 母系社会では子供に関する事柄は母親とその氏族の責任と見なされ、母方の叔父が子供に対して大きな影響力を持つ。

表 11.6 RRA 実施村における支出項目

ランク	Kaumbata 村			Nanjiwa 村			Ndemanje 村		
	項 目	応答数 (27)	%	項 目	応答数 (27)	%	項 目	応答数 (25)	%
1	食糧 (副材、塩、茶、砂糖など)	27	100	食糧 (副材、塩、茶、砂糖など)	27	100	トウモロコシ製粉代	25	100
2	種子	25	93	トウモロコシ製粉代	27	100	食糧 (副材、塩、茶、砂糖など)	25	100
3	トウモロコシ製粉代	24	89	日用品	27	100	衣類	25	100
4	衣類	23	85	衣類	27	100	医療費	25	100
5	薬品	21	75	教会税	27	100	灯油	25	100
6	肥料	16	59	薬品	21	78	トウモロコシ	24	96
7	医療費	16	59	トウモロコシ	17	63	台所用品	23	92
8	台所用品	15	56	耐久財 (ラジオ、家畜)	15	56	農業投入材 (種子、肥料)	23	92
9	毛布	14	52	労賃支払い	10	37	学校委員会への寄付	21	84
10	耐久財 (ラジオ)	11	41	肥料	10	37	労賃支払い	18	72

Kaumbata 村と Ndemanje 村では資金と市場の問題から収入獲得の機会是非常に限られているが、草・薪炭材・建築用材の販売、籠編み、レンガ製造、ブリキ加工、素焼、陶器製造などに従事している者もある。Nanjiwa 村は Mombo 市場に近いことから、他の 2 村により多様化した収入獲得の手段がある。上記に加え、ビールの醸造、雑貨屋の経営、ドーナツやケーキなどの食品販売、自転車修理、仕立て屋、大工などがある。3 村とも農地の整備、畝作り、除草などの日雇い農作業やレンガ作り、水汲み、草刈などの農業外の日雇い作業を行う場合もある。下表は RRA の中で現金収入源として上げられたものを示す。

(e) 利用可能な天然資源

利用可能な天然資源として 3 村とも上げたものは、樹木、野鳥、野生動物、河川である。Kaumbata 村では、Nkokodzi 川沿いにある葦などの河辺植生が作る淀みは重要な水資源とされている。Nanjiwa 村では在来樹種が他の 2 村より豊富である。Kaumbata 村では在来樹種林は村長の家の周りにしか見られない。各村で見られる樹木の観察頻度（見られる頻度による）を下表 11.7 に示す。

表 11.7 樹木の観察頻度

項 目	Kaumbata 村	Nanjiwa 村	Ndemanje 村
<i>Lonchocarpus capassa</i>	7	3	1
<i>Combretum collinum</i>	5	0	0
<i>Eucalyptus Spp.</i>	3	8	1
<i>Melia azedarach</i>	2	0	8
<i>Senna siamea</i>	1	4	6
<i>Mangifera indica</i>	8	10	8

<i>Terminalia sencea</i>	7	7	5
<i>Brachystegia species</i>	0	5	4
<i>Margaretta rosea</i>	0	1	0

*スコア - が高いものほど見られる頻度が高い。

薪の不足、生態系の破壊（野生動植物の減少・絶滅）、河川への土砂堆積、土壌侵食などが RRA から明らかになった問題点である。

薪の不足

3 村において全世帯が料理、暖房に薪を燃料として使用しており、時には灯火の燃料としても薪が使用される。薪不足は各村で深刻な問題となっており、女性は薪探しに長時間を費やさねばならず、そのため他の家事が滞るといった現象がうまれている。Kaumbata 村では豪雨の後女性は Nkokodzi 川に行き、上流から流されてきた木々を探す。Nanjiwa 村では女性たちが村長の目をかすめ村長の私有林から立木を切り、乾かして薪として使用している。また、燃料の不足からトウモロコシの芯やキマメの茎を煮炊きの燃料にしている。村人は煮炊きに昔からの三石かまどを使っており、Kaumbata 村と Nanjiwa 村では改良かまどの導入は一度も試みられていない。Ndemanje 村では過去にある形の改良かまどが紹介されたが、煮炊きの間家族がかまどの周りで暖を取るということができない形であったため、普及せずすたれてしまったという。

河川の土砂堆積

河川の土砂堆積は Ndemanje 村では大きな問題となっている。同村を流れる Nasonjo 川の洪水により、ガリ侵食を起こし、洗水洗堀の結果(scouring)土手の侵食が激しい。多くの村民は生活用水も野菜栽培も川の水に頼っているが、川の水は枯渇しつつある。

野生動物の減少

野生の動植物は現在大幅に減少しているが、過去、それぞれの村で動植物が豊富に存在したことを老人たちは語り、ゾウ、ライオン、水牛などの大動物も珍しくなかったという。Kaumbata 村では野生の動物を恐れ、木の上で寝ていたという。

(f) 栄養状態

食糧は 12 月から 2 月にかけて不足し、1 月、2 月に危機的な食料不足状態となる。人々はこの期間食べる量を普段より減らし、食料購入のために日雇い労働を求める。また、子供を始め人々が栄養失調の兆候を示し、下痢、コレラ、マラリアなどの病気が命取りとなるのもこの時期である。

(g) 問題分析

問題分析のワークショップで 3 村とも「貧困」を主要問題として上げ、貧困は現実の中で疾病、死、窃盗、飢餓、無知、天然資源の枯渇に具現されているという。ディスカッションの中で以下のような問題が貧困の原因として指摘された。

- 低所得；
- 開発支援団体の欠如；

- 不活発な普及体制と草の根 NGO ;
- 未整備な市場とインフラ ;
- 金融貸付機関の不足 ;
- 高い非識字率

ワークショップで明らかとなった住民が捉えた「問題およびその原因と結果」、「ニーズと事業希望」は以下の表 11.8 と 11.9 にまとめる。

表 11.8 RRA 実施村において討議された中心問題およびその原因と結果

問題、原因、結果		Kaumbata 村	Nanjwa 村	Ndemanje 村
主要問題		貧 困	貧 困	貧 困
主要問題の原因	1 次的原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民参加の不足 ● 政治的干渉 / 政府のコミットメントの無さ ● 普及サービスの不備 ● 資本の不足 ● 市場の不備 ● 産業の未発達 ● 既存開発支援団体についての知識不足 ● 低い識字率 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い教育レベル ● 人口増加 ● 天然資源の枯渇 ● 普及サービスの不備 ● 不適切な農業投入材 ● 住民の意識の低さ ● 就業機会の不足 ● 政府の貧窮 	<ul style="list-style-type: none"> ● 森林破壊 ● 両親の意に反し勤勉でない若者 ● 無知 / 非識字 ● 投資家の不足 ● 政府の貧窮 ● 資金融資組織の不備 ● 低い農産物価格
	2 次的原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 失業 ● 不安定な仕事 ● 不適切、費民的な方法で選出された住民組織のメンバー ● 住民組織役員のコミットメントの低さ ● 不適切な普及技術 	<ul style="list-style-type: none"> ● 灌漑設備の不備 ● 資金融資組織の不備 ● 土壌侵食 	<ul style="list-style-type: none"> ● 厳しい融資条件 ● 激しい市場競争
	3 次的原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 不活発な住民組織 ● 失業と低農業生産性による低収入 ● 開発支援団体の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い農業生産性 ● 現金収入の不足 ● 天候不順 ● 市場インフラの未整備 ● 開発支援団体の未整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い農業生産性 ● 市場インフラとインフラの未整備 ● 天候不順 ● 人々の不勤勉 ● 低い土壌の肥沃度 ● 融資を受けることへの怖れ (厳しい条件のため)

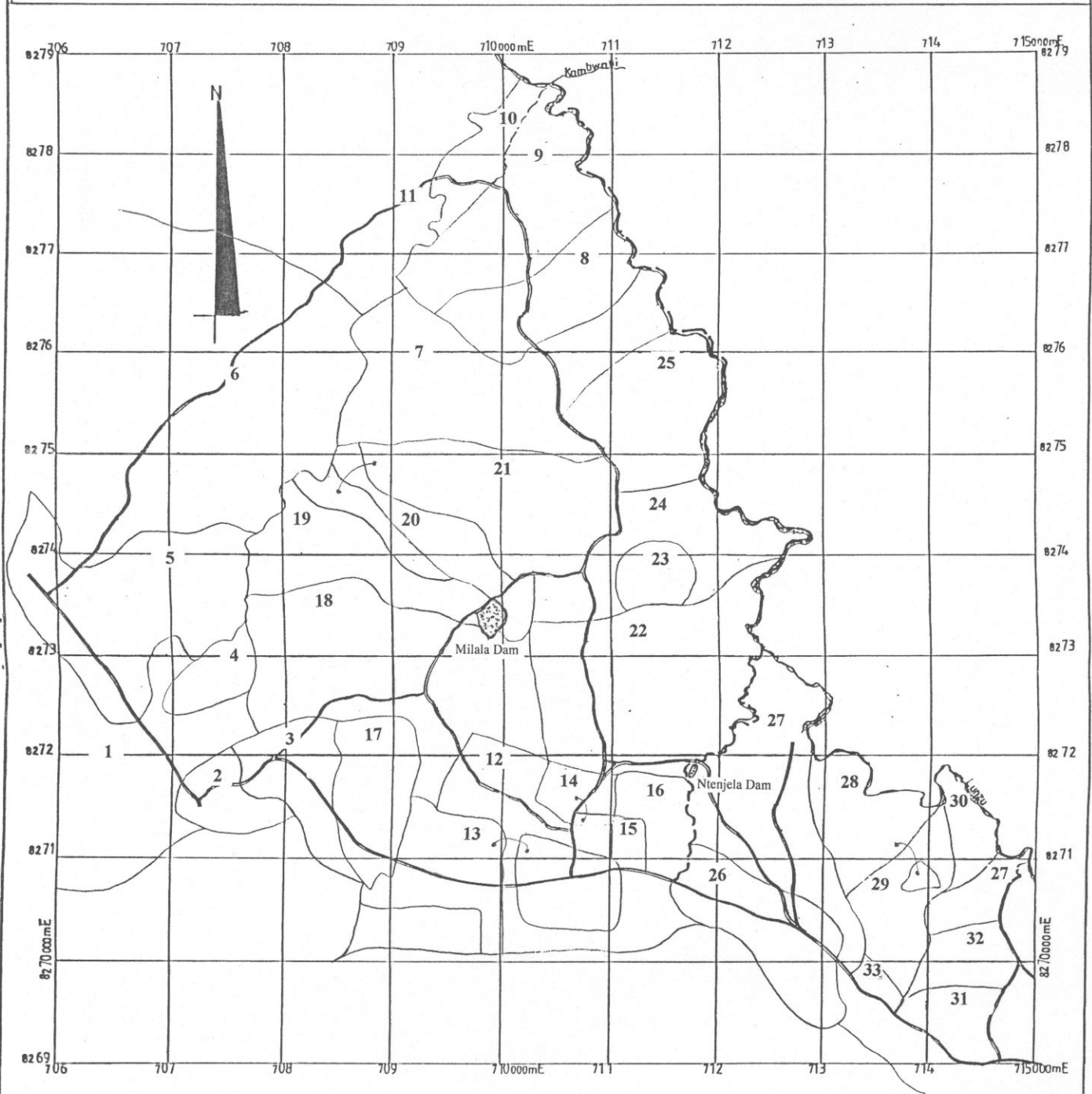
問題、原因、結果	Kaumbata 村	Nanjiwa 村	Ndemanje 村
主要問題	貧 困	貧 困	貧 困
主要問題の結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 天然資源の枯渇 ● 低い識字率 ● 飢餓 	<ul style="list-style-type: none"> ● 飢餓 ● 水不足 ● 薪不足 ● 低い識字率 ● 疾病 ● 製粉施設の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ● 心の安らぎの喪失 ● 飢餓 ● 低い識字率 ● 天然資源の枯渇 ● 疾病
1 次的結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い食糧生産 ● 飢餓 ● 体の衰弱、栄養失調、疾病 ● 失業 ● 収入向上事業の不足 ● 薪不足 ● 売春 / 窃盗 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日雇い労働の恒常化 ● 窃盗 / 売春 ● 疾病 ● 薪採集のための長い距離 ● トウモロコシ製粉所までの長い距離 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天候不順 ● 生態系の乱れ ● 不衛生な慣習 ● 資金の不正な運用・管理 ● 栄養不足 / 疾病 ● 窃盗 / 拘留 / 暴徒による制裁 ● 日雇い労働の恒常化 ● 精神異常 / 成長不良 / 物乞い ● 夫婦間の問題 ● 薪の不足 ● 燃料としての植物残滓の使用 ● 不適切な調理法
2 次的結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 孤児の増加 ● 労働生産性の低下 / 失業 ● 恒常的貧困 ● 死亡 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭内および国家的に低い生産性 ● 貧困の増大 ● 死亡 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低い家庭内生産性 ● 国レベルでの不十分な雇用体制 ● 貧困の増大 ● 死亡
3 次的結果			

表 11.9 RRA 実施村において議論された住民のニーズ、希望事業、必要投入材

	Kaumbata 村	Nanjwa 村	Ndemanje 村
優先度の のニーズ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 深井戸 2. 機械を使った灌漑 3. 診療所 4. ほろほろ鳥の飼育 5. 近代的漁業（川、淀みでの） 6. トモロソンの製粉所 7. Nkokodzi 川にかかる橋 8. Lunzu 川にかかる橋 9. 整備された道路 10. 卒業年次まである小学校と適切な教室 11. 中学校 <p>金融融資機関</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. リーダーシップとプロジェクト運営に関する研修 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学校 2. 成人を対象とした識字教育 3. 技術専門学校 4. 小学校の改善 5. 校舎 / 教員宿舎 6. 学校で使用する教材 7. 児童・生徒の文具 8. 教員資格を持った教師 9. 学校の建設資材 10. 学校の深井戸 11. 公平な教師の配置 12. 学校委員会及びP T Aの訓練・研修 13. 伝統的慣習・規範の記録 14. 天然資源管理の知識・技術 15. 普及サービスの改善 16. 病院 17. 事業を始める資金 18. 農産物の価格上昇 19. 交通手段の改善 20. Nkokodzi 川にかかる橋 21. Mombo 市場の改善 22. 保存・収納施設の改善 23. 地域自衛の改善 24. 学校教育の質の改善 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 無料医療機関 2. 起業のための資金 3. グループで製粉施設を始めるための融資 4. 深井戸 5. 農業投入材の貸付 6. 野菜を契約購入する会社など 7. Lunzu 川にかかる橋 8. 金融融資機関 9. 中古衣類を売る商売 10. 教員宿舎 11. 成人を対象とした識字教育

	Kaumbata 村	Nanjiwa 村	Ndemanje 村
必要 プロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> 適切な農業技術の採用と機械化灌漑による農業生産性の向上。 農産加工導入による就業機会の創設 成人識字教育による識字率の向上 生計向上事業の促進 金融融資機関及び開発支援機関と農民のリエゾン 天然資源管理方法の改善 住民組織及び普及サービスの機能構築 住民の健康改善 	<ol style="list-style-type: none"> 苗畑施設の建設と植林活動 改良かまどを利用した調理法の改善 アグロプロセッシング技術の採用 Nkokodzi 川沿いのポンプ灌漑による野菜栽培 成人識字教育による識字率の向上 	<ol style="list-style-type: none"> 生計向上グループ（畜産、養蜂、ほろほろ鳥および鶏の飼育など）の設立 農業生産性向上を目指した農民組合の設立 共同苗畑の建設と植林活動 組織（学校、病院など）への野菜供給。 Dimba を始めとする灌漑農業
必要 資機材等	<ol style="list-style-type: none"> 灌漑用ポンプ 金融融資策 セメントなどの建設資材 苗畑に必要な資材（ポリポット、ジョウロ、種子など） 深井戸 トレの足場（コンクリートの足台） いろいろな技術訓練・研修 養蜂資材 学校で使用する教材 	<ol style="list-style-type: none"> 苗畑に必要な資材（ポリポット、ジョウロ、種子など） 	<ol style="list-style-type: none"> ほろほろ鳥 養蜂巣箱用の木材 様々な樹木の種子 灌漑用ポンプ 農業投入材の貸付

Figure 1.1 図 11.1 モデル地区内の村落位置図 in the Model Area



NOTES

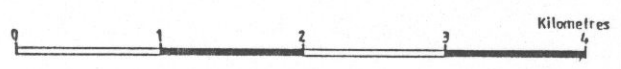
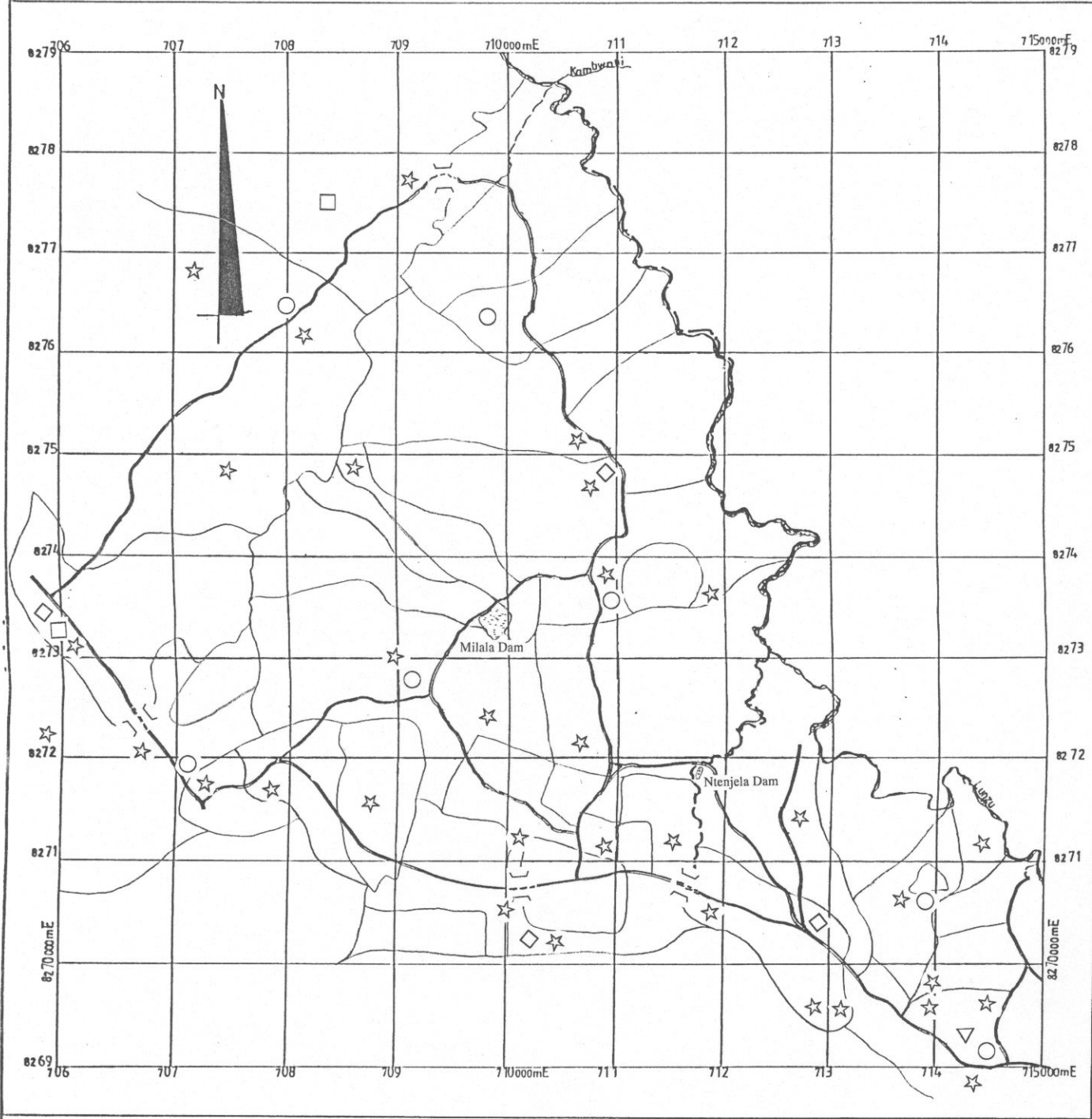
Map sketched and traced by:- Dickson J. Chonongeru.
Checked by:- Ms D. A. Ngwira.

DATE:- 12—06—2000

———— Village Boundary

No.	Village Name	No.	Village Name	No.	Village Name
1	Mang'ani	12	Kam'mata	23	Michongwe
2	Gomonda	13	Kumanda	24	Masangano
3	Gomeza	14	Tamvekenji	25	Salimu
4	Chakana	15	Daniel Mbedza	26	Peter Bilila
5	Nanjiwa	16	Chilangali	27	Kamwendo
6	Mdala	17	Magombo Ngon	28	Ndemanje
7	Kaumbata	18	Lemu	29	Simon Mpombe
8	Siyamdima	19	Teula	30	Maluwa
9	Makanokaya	20	Manjelo	31	Kumisati Chigumula
10	Chimseu Dzambi	21	Chikoja	32	Kumponda
11	Kamtumbiza	22	Makanani	33	Kateyo

Figure 2.1 図 11.2 モデル地区内の公共施設位置図 Model Area



NOTES

Map sketched and traced by:- Dickson J. Chonongera.
 Checked by:- Mrs D. A. Ngwira.
 DATE:- 12—06—2000
 ————— Village Boundary

Legend	
] [Bridge
☆	Borehole
○	Primary School
▽	Secondary School
◇	Under Five Clinic
□	Maize Mill

DRAWING/PLAN no
 1X C 301
 Land Resources and Cons.
 Blantyre A.D.D. - Malawi.